



生き生きとした明るい学校づくり
～地域に根ざした創意ある教育活動を通して～

佐世保市立黒島中学校

住所 佐世保市黒島町3184



校長名 月川 英昭
生徒数 9名
学級数 2学級（1・2年生複式）

1 目的

本校の学校教育目標である「豊かな心で主体的に学び、健康でたくましい生徒の育成」を具現化するため以下の項目を中心に、家庭・地域との密接な連携を図り、地域に根ざした創意ある活動を実践する。小中併設3年目となり「通いたい学校 通わせたい学校 働きたい学校」をスローガンとし、様々な活動の中で「表現力」「活用力」を高めながら成長していくことを目指す。

- (1) 地域に根ざし開かれた学校づくりを推進するための学校行事カレンダーの作成・配布
- (2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進
- (3) 英語力の向上とコミュニケーション能力の向上を目指した体験活動の実施
- (4) 職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施
- (5) 基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施
- (6) 環境教育と食育の推進
- (7) 地域とともに歩み、成長するための活動

2 実践内容

(1) 学校行事カレンダーの作成・配布

本年度も、小中併設3年目として小中学校の年間行事予定を組み込んだカレンダーを作成し、保護者をはじめとして町内全世帯に配布した。カレンダーには前年度に実施した児童・生徒の行事の写真も連載しており、保護者だけではなく、地域全体の学校教育に対する関心・理解が深まり、学校・保護者・地域の協力・連携を促進することができた。

(2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進



今年で6回目になるシーカヤック体験学習をさらに充実させるために、今年度は、黒島伊島往復ツーリングではなく鹿子前から九十九島の無人島往復ツーリングを行った。

郷土黒島から、郷土佐世保へ目を向け、九十九島の自然の美しさや豊かさを味わいながら、自然の持つ厳しさ（風や波）を肌で感じ、二人で協力して漕ぎ続けるたくましさをも身につけることができた。また、シーカヤックの魅力を親子で知ることにより、黒島のマリンスポーツの振興に大きく貢献することができた。

(3) 英語力の向上とコミュニケーション能力の向上を目指した体験活動の実施

①英語体験プログラム



今年で4回目になる英語体験プログラムをハウステンボスイングリッシュスクウェアにおいて実施した。この取組は外国人とのコミュニケーションを通して英語や外国人に対する苦手意識を払拭し、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを体感させることを目的としたもので、外国人スタッフが帯同しながら施設内でのアトラクションや昼食などの日常生活を英会話

のみで体験した。当初、英語のみの会話に戸惑っていた生徒も次第に外国人スタッフとコミュニケーションがとれるようになり、楽しみながら活動することができた。3年生と1年生では英語力に差はあるものの、生徒一人一人が自分の英語力を積極的に活用していこうとする態度を育てることができ、英語学習に対する意欲向上にもつながった。

②大規模校における学校生活体験（他校訪問・・相浦中学校へ）

入学後の集団生活への適応は大きな課題である。この課題に取り組むため、毎年生徒全員が大規模校を訪問し、朝の会から帰りの会まで、各学年・学級で学校生活を体験している。今年度は、相浦中学校にお世話になり、40人近い学級集団の生活を体験させていただいた。最初は、戸惑いが見られたが、時間が経つにつれ、話し合う場面を多く見られ、相浦中学校の生徒と楽しい時間を過ごし交流を深めることができた。授業中は日頃あまり実施できない多人数でのグループ学習を通して、他者の様々な意見を聞くこと、自分の意見をはっきりと述べることの大切さなど、コミュニケーション能力の必要性を体感させることができた。



(4) 職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施



本年度は3年生4名が3日間の島外で、2年生2名は、島内の事業所で3日間の職場体験学習を行った。1年生3名は、インターネットや書籍を活用した職業調べを実施した。2・3年生は各自が興味のある職業について調べ学習を行い、生徒自身が市内や町内の事業所へ体験学習受け入れの依頼を行った。当初は仕事内容を理解しながら作業を進めるのに時間がかかったが、徐々に仕事にも慣れ、従業員の方ともうまく協力しながら仕事を進めていくことができるようになった。生徒たちは、この体験活動を通して、働くことの意義を理解するとともに、仕事をするものの難しさや協力することの大切さを感じ取ることができた。また、

コミュニケーション能力の重要性も理解することができた。

(5) 基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施

①A T (アチーブメントタイム) の活用

基礎・基本的な学習内容の定着を目指し、毎日16:10～16:25の15分間をA Tと名付け、年間を通して国語・数学・英語の各教科持ち回りで課題を準備して取り組んできた。取り組む内容は基礎的なものに絞り込み、年間を通して継続させることにより、確かな学力の土台作りとするとともに、学習習慣の定着を図るための取組として実施した。さらに授業中は、A Tの時間で身に付けた力を確認するため、それらを活用していく場面を設定した。また、表現力向上に向けた取り組みとして、弁論大会に向けた練習や発表会に向けた合唱練習にも取り組んだ。校内弁論大会では小学1～6年生も聴衆として参加する中、一人ひとりが堂々とスピーチすることができた。合唱やトーンチャイムなど黒島くんちや中連音楽会においてその成果を発表することができた。

(6) 環境教育と食育の推進

①ふれあい給食

6月の学校公開週間と、1月の学校給食週間の2度、全児童生徒、職員に加え保護者、地域の方をお招きしてふれあい給食を実施した。1月のふれあい給食では、給食感謝標語や給食クイズの発表や給食を作られている方へのメッセージカードの贈呈など、和やかな雰囲気感謝しながら給食をいただく機会となった。

②黒島豆腐づくりの実施



今回、小中別々に隔年実施していた黒島豆腐づくりを、小中合同で小学1年生から中学3年生まで行った。小中学生混成班にしたことにより、中学生がリードして小学生を教える場面を多く作ることができた。また、作る工程の加減やコツについては、講師のアドバイスを受けながら、独自の製法を学ぶと共に黒島の食文化を大切に守り伝えていこうとする態

度を育てることができた。

(7) 地域とともに歩み、成長するための活動

①あいさつ運動

年間を通して生徒会役員と職員が正門に立ち、登校してくる生徒とあいさつを交わしてきた。これは本校の「一校一徳運動「笑顔であいさつ、プラス1（感謝の心）」を具現化するために生徒一人一人、全教職員が取り組んでいるものであり、あいさつを交わすことで優しい心、相手を思いやる心を育て、学校生活を明るく楽しいものにするよう取り組んでいる。

②G T (ゲストティーチャー) による小中合同体育 (ヒップホップダンス、よさこいソーラン節) の指導



7月15日、9月16日の2回 運動会に向けて、昨年に引き続きYosakoiさせば祭りで結蓮と須賀IZANA I連で活躍されている実相院^{じっそういん}さんに、よさこいソーラン節とヒップホップダンスのご指導をいただいた。今までは伝統のソーラン節を運動会で発表していたが、今回ヒップホップダンスの指導も受け小学1年生から中学3年生まで迫力ある演技で踊ることができた。

③黒島町民・黒島小中学校合同運動会



ヒップホップダンスを指導された実相院さんと須賀 I Z A N A I 連の 3 名をゲストに迎え Yosakoi させぼ祭りの演舞を披露してもらうことができ、運動会に華を添えていただいた。

運動会当日は、応援合戦においては、小学生の部、中学生の部、小中合同の部において、小中学生のそれぞれが良さを生かしながら応援合戦を繰り広げることができた。少人数で様々な役割を果たさなければならない合同運動会だが、生徒の自主性やリーダーシップを伸ばし、精神的・体力的に大きく成長させる絶好の機会となっている。

④敬老の日の便り・年賀状作成

毎年、生徒全員で町内に暮らしておられるお年寄りの方々に敬老の日の便りと年賀状を作成して郵送している。内容はお祝いの言葉や自分たちの学校生活や家庭生活の様子、お年寄りの健康を気遣う中学生らしいものである。これからもこの活動を通して、長く黒島を支えてきたお年寄りを敬い大切に作る心や、自分たちを見守り続けてくれたことへの感謝の心を育てていきたい。

3 「義務教育学校に向けて」

本年度は、小中併設 3 年目にあたり、昨年度の 1 年間の成果と課題を踏まえた上で、さらに小中合同行事のメリットを最大限に生かした教育活動を推し進めることができた。生徒たちも、小学生の模範になろうと、各行事において意欲的に取り組むことができた。

また、黒島の豊かな自然と地域の人たちの中で様々な体験活動を経験し、心豊かでたくましい中学生へと成長できた。平成 30 年度から、新校舎で義務教育学校としてスタートするにあたり、次年度は、小中併設校で築き上げた成果をもとに、離島の極小規模校（黒島小中学校）にあった義務教育学校のあり方の研究を行い、義務教育学校 9 年間のスパンのメリットを最大限に生かしながら、黒島でなければできない黒島だからできる特色ある教育活動を展開できるようにしていきたい。